



## レタス

### ネマキックの効果実感 土壌分析で畑を理解



長野県川上村 **吉澤郷志さん**〈レタス〉

2018年

J A長野八ヶ岳川上支所管内の吉澤郷志さん(取材当時34)は、祖父の代からのレタス生産者。両親の代に、連作障害の回避を目的にレタスに加えハクサイを取り入れ、今は郷志さんがハクサイの作付けを増やして4ヘクタールの畑をまわしている。レタスは3月中旬、ハクサイは5月中旬に播種。収穫はレタスが6月上旬～9月下旬まで、ハクサイは7月下旬～11月上旬まで続く。

#### ■ネマキック粒剤の効果が持続

吉澤さんが線虫防除で「ネマキック粒剤」を使ったのは2017年4月。一部の畑で線虫被害が出て悩んでいるとき、ネマキックがレタスに適用拡大されたことを知り使ってみた。レタスは1ケース16玉入りの規格が理想だが、線虫被害が出ると肥大せず18玉になったり、商品にならなかつたりする。環境や条件が違うので比較するのは難しいが、**前作は線虫被害で肥大しなかった畑でネマキックを使ったところ、天候不順にも関わらず理想の規格で出荷にこぎつけた。また作付けの都合でレタスの後作もレタスだったときでも、ネマキックは効果が持続していた。**吉澤さんは「恐る恐る使ってみたが、確かに効果があった。今年は使用する畑をだいたい増やしたい」と信頼を寄せる。

#### ■畑を知ることで規模拡大図る

吉澤さんが線虫防除を始めたのは2009年頃。就農後、未利用だった農地でレタス栽培を始めたところ線虫被害の症状が出たためだ。自分の畑にどれだけの土壌病害虫がいて、どうすれば減らせるのか。以前から関心が高いテーマだった。2017年に、**アグロ カネショウの土壌分析を利用する機会があり依頼してみた。9～11月まで計3回、土壌中の線虫密度を調査して畑の状態を把握した。「自分の畑のデータが取れるので、すごく意味がある」と**吉澤さんは評価する。生産基盤である畑の土壌は千差万別。良品づくりには、まず自分の畑を知ることが第一歩といえる。土壌分析への期待が高まりそうだ。

**アグロ カネショウの  
土壌分析**

農作物の生育に  
大きな役割を持つ  
土壌の健康診断を  
実施しています。

